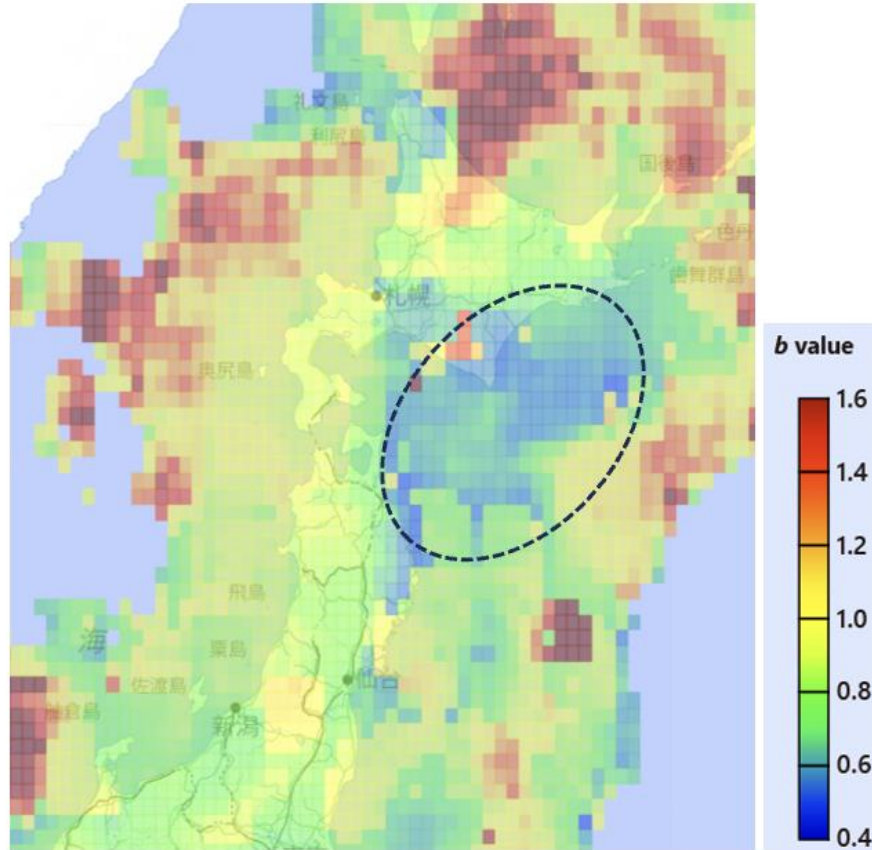




北海道沖での歪の集中について

今年3月2日のニュースレターで「北海道沖の地震活動の異常」について触れさせて頂き、現時点で北海道沖ではその値が0.6程度まで低下している事をお伝えしました(極めて異常な状態)。

低 b 値 = 高応力状態 = 歪が蓄積している状態という事なのですが、今週号では、中部大学の井筒潤教授の計算結果をお示したいと思います。



図中で、北海道沖および青森県沖に青い領域を確認する事ができるかと思えます。この黒点線で囲った領域では歪が相当程度蓄積しており、東日本大震災の前と同じような状況であるとも言えるのです。

高いb値：低応力

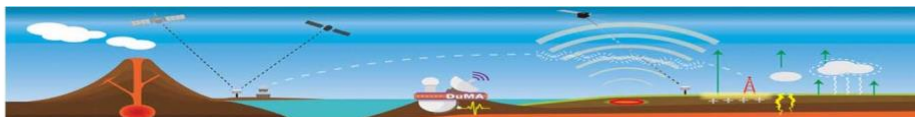


高いb値: 小地震が多く、応力が低い。断層が圧力を解放している状態。

低いb値：高応力



低いb値: 小地震が少なく、応力が高い。断層がエネルギーを溜めている状態。

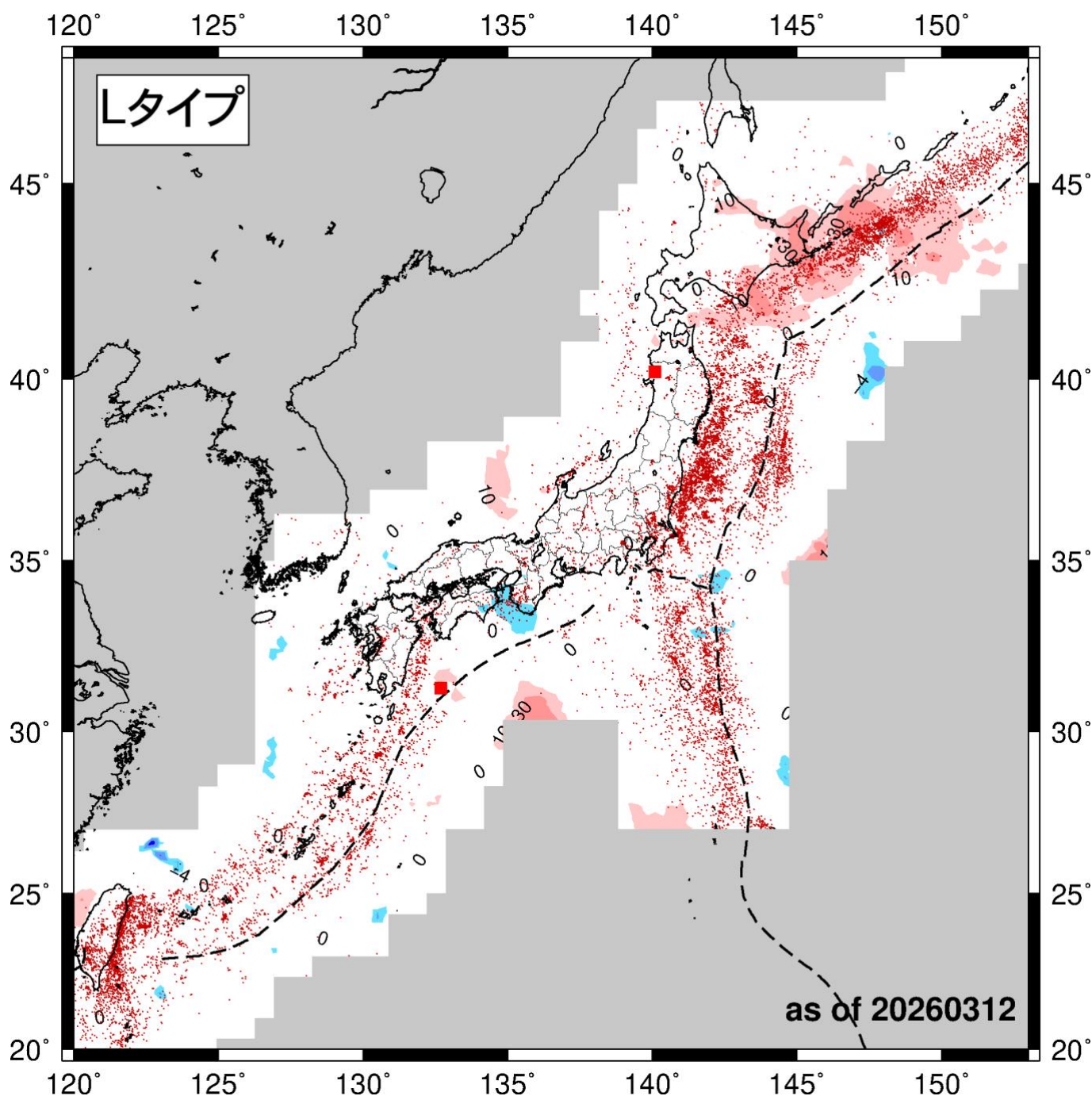


換言すれば、 b 値は、地下がどれくらい歪を溜めているかを評価する指標とも言えるので、規模の小さい地震は大きいものよりも発生数が多いという地震の規模別頻度の性質を表すグーテンベルク・リヒター則のパラメータです。 b 値は1程度の値を取ることが多く、 $b=1$ の時、グーテンベルク・リヒター則は、マグニチュードが1大きくなると地震の発生数が10分の1となることを意味しています。

また前震活動では b 値が小さい事が経験的にも知られており、実際東日本大震災前の3月9日から発生した地震群は b 値が通常の地震活動よりかなり小さかった事が明らかになっています。

日本およびその周辺の広域地下天気図®

昨年12月29日以来となりますが、現在の気象庁の観測網で解析できる最大範囲の領域の解析です。今週号では3月12日時点のLタイプ地下天気図をお示しします。





この日本列島広域の地下天気図で対象とするマグニチュードは7以上の地震です。この所の活発な地震活動のため、北海道沖でかなり地震活動が活発化(赤い領域の存在)している事がわかります。

また紀伊半島の地震活動静穏化については、例えば今年2月9日のニュースレターでも触れていますが、DuMAとしては大変危惧しています。

テレビ静岡の地震特集

静岡県でフジテレビ系列に属するテレビ静岡で、東日本大震災から15年という節目という事もあり、南海トラフ地震に関する特集が組まれました。この特集映像がYouTubeでも見る事ができるようになっています。

この特集については DuMA/CSO も取材協力を行いました。東日本大震災と想定される南海トラフ巨大地震の違い等についても触れられています。

[東日本大震災から15年 南海トラフ巨大地震を改めて考える “防災先進県”の今後 あの日の記憶と対策 | FNNプライムオンライン](#)

YouTube 映像は以下の URL となります。7分30秒ほどの映像となっています。

<https://www.youtube.com/watch?v=6xeSE12oHI4&t=1s>